

郡内武士団の登場／勇士古郡保忠

鎌倉幕府の公的記録である『吾妻鏡』は、そもそもの治承・寿永の戦乱の発端の部分のなかに、源頼朝の挙兵に応じた東国武士団の活躍ぶりを記している。

その東国武士団のなかでも中心的存在は、武田氏・安田氏などの「甲斐源氏」の一族であった。

都留郡の御家人古郡氏

治承・寿永の乱を平定し平家を討滅した頼朝は、建久元年(一一九〇)成人後はじめて上洛した。王朝国家の元首後白河法皇への表敬訪問に事寄せながら、実質的には東国武士軍団の戦乱勝利の示威が目的であった。頼朝の入洛にあたって貴族たちは加茂河原に車を並べて見物に押しかけ、後白河法皇も密々御覧になったという。この軍事パレードの随兵のなかに、武田・安田らの国中地方甲斐源氏の武士と並んで「七番 平山小太郎、樟田小次郎、古郡次郎」・「五十七番 小山田四郎、三浦平六、小山田五郎」の名がある(吾妻鏡)。後々郡内地方に重要な関係をもつ両氏(古郡・小山田)の初見史料である。古郡氏は武蔵横山党あるいは地縁の平山氏とともにあり、平姓小山田氏は三浦氏とともにある。いずれにしろ、甲斐国の武田氏有縁の武士とは位置づ



栄西禅師



郡内の武士「古郡保忠」



保忠の恋人舞女「微妙」



尼将軍「北条政子」

けられていない。

このように、史料のうえで真つ先に登場する郡内地方の武士団は古郡氏であった。古郡氏は「武田党」の一部でもなく、甲斐国衙在庁武士として動員されたのでもなく登場してくる。源平内乱期に登場する都留郡に関わりのある武士団は、両軍を通じて古郡氏だけである。すくなくとも古郡氏が平安末期の時点で郡内地方に卓越した勢力をもっていたと推定される。古郡氏の根拠地は本誌前号であげた平安時代の「都留郡古郷(上野原町北辺)」であったと推定される。《他に都留市「古川渡」周辺とする説(佐藤八郎氏・窪田薫

氏)もある。これは古く『甲斐名勝志』に「今古河戸村有。是古郡の転ならんか」とあり、『地名辞書』に「郡を『コホド』という例は諸州にある」という記事を根拠にされているようである。》

古郡保忠の「女論」事件

頼朝が死んでほどなく、建仁二年(一一二二)八月鎌倉で騒動が起った。中味は政治むきのものではなく「女論」と呼ばれるものだった。こんなプライベートルな事件でも『吾妻鏡』に詳しく記録されていることからみて、鎌倉中の話題をさらったのだらう。御家人古郡保忠は舞女(白拍子)「微妙」と「比翼連理の契り」を成すような深い仲であった。ところが微妙は、保忠が甲斐国に下向中に彼の帰りを待たずに「亡き父の夢の後を訪んがため」と称して栄西禅師を頼って尼になっちゃった。これを栄西の壇越だった北条政子が哀れんで居所を世話して庇護者となった。鎌倉に帰ってきた保忠はこの成行きを知って激怒し、栄西のところへ押しかけ弟子達を相手に大暴れをした、というわけである。近隣の者たちがびくつきして駆けつけたが政治的な異事ではないというわけで、即ち退散してしまった。政子は小山朝光を遣わして保忠の乱暴狼藉を赦したという。このエピソードからは鎌倉初期の武士達の息づかいがきこえるようである。御家人達は自分の御恩

と奉公は親子のごとく將軍直に結ばれていると思っていそれと戦乱を自らの力量で乗りた自負とが折交じった独特のがあった。頼朝生存時に熊谷が出奔して頼朝がうるたえたと同じような一件で、この場合政子が家の子の駄々を引き取納めたということである。『鏡』の編者は、騒動の内容はありがちなことだったが、鎌士の典型のような保忠之人物伝えたかったのであろう。(都留市史「通史編」より)

第3回ふるさと探検隊

今回は、東桂地区の宝鏡寺周辺で、「緑の探検隊」をテーマに、自然観察や自然とのふれあいをとおしてのゲームなど、親子で半日楽しめる内容を予定しています。ふるってご参加ください。

期 日 9月28日

集合場所 宝鏡寺

集合時間 午前9時

持ち物 筆記用具

申込先 ふるさと探検隊実行委員会

森屋宏(43)4194

※雨天の場合は中止します。

第39回山梨母親大会

母親大会は、「生命を産み出す母親は、生命を育て、生命を守る

ことをのぞみます」のスローガンの下に、母親が集まって、悩みを話し合い、学習し、やがて立ち上がって運動をおこしていく、女性の広場です。

多くのお母さんの参加をお待ちしています。

日時 9月29日

午前10時～午後4時

場所 文化会館

ふるさと会館

富士女性センター

日程 午前 分科会

午後 全体会

記念講演

大月短大教授 村越 洋子さん

「さあ見つめよう

あなたのくらし わたしの未来」

問合先 山梨母親大会・都留市母

親大会・実行委員会

☎(43)3649

寄付(敬称略)

小林 与一

竹ぼうき 二十本

花びん 五〇個

老人福祉のために

白井 秀雄

金一〇〇、〇〇〇円

市立病院・老健職員の福利厚生充

実のために

匿名 金三四〇、〇〇〇円